

奥会津だより

第35号
2006年春



江 歩美ちゃん(中)

かた雪わたり

明け方の冷え込みで雪の表面が
たく凍り、雪原を自由自在に歩き回
ることができる晴れ渡った朝。一枚
の板のようになった雪の原を、二人
の姉弟が走り回って「かた雪わたり」。

かた雪かんこ しみ雪しんこ
かた雪かんかん しみ雪しんしん
キックキックトントン キックキッ
クトントン

宮沢賢治の『雪わたり』の一節が
絵のように蘇る。

キツネの幻燈会に招待された兄妹
が、降り注ぐ月の光の下でキツネの
子供たちと心を通い合わせる気高く
美しい物語である。

一直線に山に向かう足跡があった。
まさしくキツネの足跡だ。奥会津の
森でも、幻燈会の準備が整ったのか
もしれない。

第10回 歳時記の郷・奥会津 フォトコンテスト

入賞作品については、奥会津各地で展示していく予定です。
(展示情報は4面をご覧ください。)



『自然風景・郷土文化部門』個人の部グランプリ作品
三浦 孝之 「幽谷」(撮影地:三島町)



『自然風景・郷土文化部門』
グループの部グランプリ作品
フォト杉並木(女性の部)
『歳時記の郷 一期一会』
高田 隆子 「苔清水」
(撮影地:檜枝岐村)



『只見線&SL部門』
グランプリ作品
峯崎 和貴 「郷の春」
(撮影地:会津横田~会津大塩)

2月18日(土)、大沼郡金山町本名地区の「御神楽館」にて、第10回歳時記の郷・奥会津フォトコンテストの表彰式が開催されました。
平成17年9月から11月末まで、「自然風景・郷土文化部門」、「只見線&SL部門」の2部門で作品を募集し、合計1020点の応募がありました。
表彰式は、終始和やかな雰囲気の中で行われ、その後の交流会では、参加者は、町村長や審査員の先生と交流を深めました。
入賞された皆様、本当におめでとうございます。

『自然風景・郷土文化部門』

●個人の部

【グランプリ】	三浦 孝之	「幽谷」
【準グランプリ】	市川 正	「旧家の印象」
【準グランプリ】	須永 純子	「山上の楽園」
【竹内敏信賞】	平野 和彦	「山肌」
【上原治雄賞】	淀川 潤	「川霧の中へ」
【神原透雄賞】	大類 好二	「高原の朝」
【堀江克彦賞】	高田 道雄	「山里の秋」
【柳津町長賞】	橋本 孝一	「紅葉」
【三島町長賞】	緒方 敏子	「これでいいかな?」
【金山町長賞】	佐藤 真吾	「春」
【昭和村長賞】	泰楽 一清	「矢の原湿原の秋」
【只見町長賞】	春成 忠生	「いたわり」
【南郷村長賞】	湯田 耕衛	「郷愁」
【伊南村長賞】	中嶋 太一	「春の渓谷」
【館岩村長賞】	小滝 清次郎	「山里の秋」
【檜枝岐村長賞】	熊田 行雄	「桜の下で!」
【富士フイルム賞】	高柳 芳永	「春の里山」
【学研CAPA賞】	佐瀬 秀康	「雪舞う天使」
【写真弘社賞】	二瓶 敏雄	「古の雅 摩崖仏」
【皆勤賞】	中西 美那子	「ラインライト」
【準皆勤賞】	佐藤 美智子	「んめど〜」
【功労賞】	中丸 一雄	「厳寒の朝」
【功労賞】	諸井 祥一	「滝の階」

他 入選 13名

●グループの部

【グランプリ】	フォト杉並木	「歳時記の郷 一期一会」
【準グランプリ】	εoグループ	「奥会津 清澄」
【フレームマン賞】	FCおんべ	「郷愁」
【フォトテクノ賞】	フォトクラブ小山	「奥会津の聲」

『只見線&SL部門』

【グランプリ】	峯崎 和貴	「郷の春」
【準グランプリ】	鈴木 彦三	「盛秋の鉄橋」
【準グランプリ】	西村 正博	「冬花火」
【椎名誠賞】	藤澤 孝司	「奥会津の風」
【広田尚敬賞】	坂口 武男	「一番列車」
【中井精也賞】	鈴木 公久	「川霧湧く」
【柳津町長賞】	山内 久良	「車窓の桜」
【三島町長賞】	江本 直尚	「夏休みの思い出」
【金山町長賞】	吉原 秀之	「輝く」
【只見町長賞】	佐々木 昭	「方向転換 よいしょ」
【Panasonic賞】	佐々木 竹広	「霧進」
【EPSON賞】	諸井 祥一	「稲穂の歓迎」

他 入選 28名

(敬称略)

第10回 歳時記の郷・奥会津 俳句大賞

平成17年8月から10月末まで募集いたしました「第10回歳時記の郷・奥会津俳句大賞」の特別賞受賞作品をご紹介します。

◆特別賞

【歳時記の郷奥会津俳句大賞】
蛸の誰にも遠く鳴きはじむ
茨城県 清水八工門

【準賞】
湧き水を祀る玉梨新豆腐
神奈川県 草柳 得江

【只見川電源流域振興協議会賞】
ハーモニカを吹かせて置けよ受験生
埼玉県 前田 虹雨

【柳津町長賞】
郭公や佐久へもてなす鯉買ひに
神奈川県 高松 久代

【三島町長賞】
金賞の菊なり千百拾六花
千葉県 石野 欽司

【金山町長賞】
杉板の匂ふ会津の雪囲
福島県 古市 文字

【昭和村長賞】
干菜吊る山家歪つな戸を開めて
奈良県 山辺 浩子

【只見町長賞】
落葉焚き最後はいつも父一人
神奈川県 長瀬 正之

【南郷村長賞】
今朝秋のからまつ雨匂ひけり
東京都 小野 隆志

【伊南村長賞】
会津野の代田月夜となりけり
島根県 上田 勉

【館岩村長賞】
とんぼうや消炭色に奥会津
神奈川県 原山テイチ

【檜枝岐村長賞】
木賊刈る音や良寛記念館
新潟県 小林 一雨

◆小中学生の部

【大賞】
ビー玉の中に夕日が住んでいる
柳津小 長谷川莉那

【準賞一席】
先生が熟した柿をふんじやった
西山中 小島 遙

【準賞二席】
いわしぐもならんでならんでつながって
横田小 渡部 大地

(敬称略)

◎投句総数

一般：3,548句
小中生：1,208句

たくさんのご応募、誠にありがとうございました。

俳句大賞作品集のお知らせ

「第10回歳時記の郷・奥会津 俳句大賞」の作品集をご希望の方には、お分けいたします。下記までお問い合わせ下さい。

〒969-7511福島県大沼郡三島町宮下字中乙田979

☎ 0241-52-3580

歳時記の郷奥会津俳句大賞事務局 宛





雛流し

残雪深い只見川べりに、木箱に並べられた紙ひなが流される。遠く紀州の淡島様まで、女性の厄を背負って代参してくれるという紙のひな。子供たちの手で只見川に流され、はかなげに川面を漂って行く。春を迎え入れる風物詩だ。

奥会津に暮らす



マタビざるを晒す

3月になってもまだ雪は降る。冬の間に編んだマタビザルは、こうして軒下にさげて冷たい風と雪に晒す。強靱さと白さが増して虫がつかなくなるといわれている。雪が消える頃には屋内に取り込まれ、春からの活躍を待つ。



アサツキの畑

雪を割って収穫していたアサツキの畑は、すでに収穫を終えた。あたりはまだ残雪が深い中で、収穫を終えたアサツキ畑だけが黒い土を見せている。

野生のアサツキはまだ深い雪の下だ。



畑の土撒き

深い雪を掘って土を掘り出し、それを畑に撒いておくと、太陽の熱を吸い取って一気に雪解けが進む。一刻も早く畑の雪が解けるようにと、あちこちの畑で土が撒かれ始めている。



凍み大根

大根は一冬の食を支えてくれる大切な冬野菜であるが、さすがに春近くなるとスが入ったり、痛んだりし始めるので、一度茹でてヒモを通し、軒に下げて乾燥させると、風味のある干し大根が出来る。生の大根と違った食感、風味に加えて、太陽を吸い込んでミネラル豊かな食材に変身する。保存できるので、新しい大根が出来るまでの間、煮物の材料として食卓を彩る。

● 春を待ちながら ●



栃の実さらし

雪解けで水かさが増した川の水はことさら冷たい。栃の実はこの冷たい流水に10日ほど晒されたあと、灰汁であく抜きをするが、水が温かくなると鮮度を保てない。栃さらしは3月一杯でほぼ作業を終える。

『歳時記の郷 奥会津フォトコンテスト』入賞作品より

奥会津とっておきの風景

※詳しい撮影場所、その他の入賞作品はホームページでご覧いただけます。
『歳時記の郷 奥会津』 <http://www.okuazabu-style.com/tdrxk/>



第10回作品
撮影者：佐瀬 秀康
撮影地：昭和村

『雪舞う天使』



第10回作品
撮影者：高橋 孝子
撮影地：檜枝岐村

『こぶし』



第10回作品 『春路を行く』
撮影者：佐藤 豊行
撮影地：只見町



白菜の古漬け炒め



秋に収穫した白菜は、四つ割にして塩で漬ける。冬の間、毎日のように食卓にのぼるこの白菜漬けも、雪が消え始める頃には酸味がでてきてしまう。この酸っぱくなった古漬けが、炒めると別の一品に変わる。油で酸味がほどよく抑えられ、ごはんが進む。酒の肴にも向く。昔はじゃが芋を入れ、米の代用食としていた。最後までおいしく食べざる知恵は、奥会津各地に今も受け継がれている。

作り方

- ①白菜漬けを水洗いして切り、沸騰した湯でゆでる。柔らかい白菜が好みならゆでてほしたあともう一度ゆでる。
②白菜をしほり、油で炒める。
③砂糖、しょうゆ、輪切りにした赤唐辛子、打ち豆を加え、汁気がなくなるまで炒め煮する。

思い出を一言

これは母の思い出の味なの。汁気がたっぷり残ってるところに大きく切ったじゃが芋を入れて煮てた。じゃが芋はこの頃になると甘味が増えて、一緒に煮るとおいしいのなあ。これ作るたびに、亡くなった母を思い出すの。(猪岐アキホさん・昭和村)

奥会津つれづれ

一日ずつと用事がなくても、手元がないとなんだか大事な忘れ物をした気分になる。急ぎの用事があるわけではないけれど、一人になるとただ開いてメールを見た、電話をかけたります。

十年前はまだ一部の人が持っているだけだった携帯電話も、今や一人一台の時代だ。電話やメールの機能だけでなく、カメラや動画、買い物をしたり音楽を聴いたりと同様な役割を持つ。

仕事でも私用でもメールを使う機会が多いが、電話をすれば済むことも多い。用件が伝わらないなかつたという経験はないだろうか。自分の送ったメールの内容がどれだけ相手に理解されているかと

いう実験で、その理解度は平均して5割程度という研究結果が出たという。一方受信者はメールの真意をどれくらい理解したと認識しているのか調べると、受信者の8割がメールの真意を理解していること認識していたというのだ。互いに意思疎通が図られていると思いが、実際にはそれほど理解がされていないのはメールに限ったことではないが、どれだけに皆さんの言葉や言葉を並べても自分が思うより相手にはその思いが伝わっていないことが多いのだ。

奥会津の情報を発信する一人として、情報の多さや新しさばかり気を取られて、春の土の匂いやブナの芽吹きの鮮やかさを、私は伝えたいのだから。言葉の力を無駄遣いせずその思いを相手に伝えることは本心に難しい。(山本)

3月→5月

奥会津イベント情報

金山 第10回歳時記の郷 奥会津フォトコンテスト優秀作品展 3月

檜枝 三尾瀬公園 フィッシングパーク

三島 全国編み組工芸品展 第5回

場所 三島町生活工芸館 日時 3月18日(土)、19日(日)

檜枝 会津駒ヶ岳春山トレック

檜枝 愛宕神社祭礼奉納歌舞伎

館岩 ツーデーウオーク 第6回会津高原しらかば

金山 ツーデーウオーク 第5回妖精の里かねやま

柳津 やないづウオーク 第6回歴史と文化の

参加料 無料

お便り紹介

方言クイズ